

国宝となった霧島神宮本殿の壁面には、中国において孝行を尽くした人物たちを描いた、二十四孝の絵が描かれています。

孝行なる行いは、現在でも美德とされていますが、昔は親孝行をした子ども(孝子)は表彰される存在でした。

### 各地域の孝子碑

江戸時代、幕府は上下関係を重んじる儒学(朱子学)を学問・政治的に奨励しました。その結果、目上や家長を敬うべきという忠孝道徳心が形成され、人々に浸透していきました。

忠孝を奨励するため、全国で孝子が表彰され、薩摩藩でも各地域の孝子が藩から表彰されました。表彰された孝子は地域の誇りとして顕彰され、孝子碑が建てられます。

旧福山小学校の校庭跡には、農民仙五郎孝行石碑があります。父を若くして亡くした仙五郎は、母を大切にし、病気となった兄の療養も行いながら勤

勉に働き続けました。孝行の鑑として藩などから褒美をもらい、これを顕彰する石碑が文化7(1810)年に建てられました。

牧園の飯富神社前には、永岩次郎の孝子碑があります。体が不自由になった母のために働き、母を背負って祭りに連れて行くなど、いつでも母親を

### 親を敬う孝行者

# 孝子

一番に行動していたため、藩主から米を<sup>下賜</sup>されたようです。次郎は下賜された米を費用に充て、泥道に切り石を敷くなどインフラ整備にも着手しています。

このような孝子が表彰された事例はまだまだあります。

### 歌われる孝子

明治4(1871)年生まれの国分

府中の長崎金左工門は、病身の父の看護をしながら孝行を尽くし、国から褒章を受けました。これをたたえ、国分小学校南側に孝子之碑が建てられました。その際、除幕式歌が作られ、毎年国分・向花・上小川小学校の児童たちが歌っていたそうです。その一部を紹介します。



国分小学校南側にある孝子之碑

本 生きたる人を葉にて ふみ分け行かん孝の道

親を看護する姿は地域の誉れであり、子どもたちへと教え継がれていきます。近世・近代において理想とされた孝行は、自分の身を犠牲にしながら行なうものとされていたのです。

### 時代に利用される価値観

孝子が表彰・顕彰されてきたのは、単に良い行いだからというわけではありません。封建社会においては、農民の統治を目的として、目上(支配層)を敬い、文句を言わずに働くことを意識付けるため、支配層からの都合によって利用されてきた側面もあったのです。

近年、子どもが親などの介護に追われて社会から切り離されるヤングケアラーが問題となっています。今求められるべきは、自己犠牲の孝子をただ褒めるのではなく、周囲にいる大人たちが手を差し伸べることなのではないでしょうか。

(文責 小水流)

※身分の高いものが、身分の低いものに物を与えること。

## 郷土の扉

The gateway to local history